

中学・高校生～

2018年3月 no. 66

よんでネット* 2018 春号

発行□茅ヶ崎市立図書館／協力□茅ヶ崎図書館子どもの本の会

「世界を7で数えたら」

ホリー・ゴールドバーグ・スローン
三辺 律子 訳



小学館〔933ス〕

ウィロー・チャンスはちょっと変わった12歳の女の子。人物観察は熱心。好きな数字は7。好きな物は植物。医学の知識は天才的。

愛情いっぱい育ててくれた養父母が、突然車の事故で亡くなってしまった。はじめて出来た友だちのマイは、兄や母、カウンセラーのデルをまきこんで彼女が児童福祉の施設へ行かずに自分達と一緒に、暮らせるように努力した。

まちかどずかん 「街角図鑑」

三士たつお 編著

マンホール、電柱、カーブミラーなど、街なかで普通に見かけるものの図鑑。

パイロン (三角コーン)

— 誰にも触られないことこそ、パイロンの使命。きっと世の中には、幸運にも何十年にもわたって、車にも激突されず、紫外線もあまり受けず、生き延びているパイロンがあるはずだ。現存する日本最古のパイロンは？ 識者の報告が待たれる。—



実業之日本社〔049ミ〕

「わが盲想」

モハメド・オマル・アブディン

スーダン人の大学生。モハメドは視覚障害者。ある日、日本で鍼灸を学べる留学生募集の話を知る。「針を使うような危ない仕事を視覚障害者にさせるなんて、日本は様々な面に進んでいるに違いない」

かくして、モハメド青年は内戦が続くスーダンを離れ、留学を決意する。「視覚障害者」「外国人」という異なる視点で書かれた滞在記&奮闘記。



ポプラ社〔916モ〕

「夜露姫」

みなと董

時は平安。中納言の姫君晶子は15歳。父は横笛の名手で、後三条の帝から名笛「黒鶉」をおすかっている。勝気な晶子は藤原授開家左大臣の息子にいいよられるが、視を投げつけ追い出してしまう。間もなく「黒鶉」が盗まれ、父は失意のうちに亡くなり、落ちぶれてしまった。そのころ夜盗狭霧丸が世を騒がせていた。姫は「黒鶉」を見つけ父の無念をはらすべく、夜露と名のり盗賊の仲間になる。



講談社〔913ミ〕

「青空に飛ぶ」

鴻上尚史

中学二年生の萩原友人はひどいいじめに苦しみ、屋上から飛んで死にたいと思いつめていた。

そんな時、伯母の勤める病院で佐々木友次さんに出会った。その人は太平洋戦争で九回特攻し、九回生還した特攻隊の人だった。上官の非情な命令に負けず飛び続けた男と教室で戦う少年。友人は佐々木さんと話すことで自分も生きる道を見つけたいと思うようになった。



講談社〔913・6コ〕